令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人神戸市民文化振興財団
施設名	神戸文化ホール
内定額	26,522　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	エマニュエル・パユ　プレゼンツ　KOBE国際音楽祭2025　オープニング・コンサート	令和7年7月12日（土）	大ホール
公-02	ポスト舞踏派「魔笛」	令和7年7月5日（土）	中ホール
公-03	神戸文化ホール開館50周年事業 Creating in Kobe 神戸で創る「人間讃歌」『流々転々 KOBE1942-1946 』	令和8年2月14日（土）、15日（日）	中ホール
人-01	第11回　神戸国際フルートコンクール	8月29日～9月7日	神戸文化ホール中ホール
人-02	神戸文化ホール　アートマネジメント人材養成講座2025 ①インターンシップ　②アートマネジメント講座	①インターンシップ　6月～2月 ②アートマネジメント講座　9月26日（木）、10月23日（木）、11月20日（木）	①インターンシップ　神戸文化ホール、新開地アートひろば、神戸酒心館 ②アートマネジメント講座　神戸市立中央区文化センター
普-01	神戸文化ホール ウェルカムジャンボリー2025「コブホであそぼ！」	6月21日（土）	神戸文化ホール全館ほか
普-02	神戸文化ホールこどもコブホ2025【体験プログラム】音楽体験ワークショップ「音であそぼう！」&【鑑賞プログラム】演劇公演　マームとジプシー「めにみえない　みみにしたい」	7月24日（木）／25日（金） 8月2日（土）／3日（日）	神戸文化ホールリハーサル室 新開地アートひろば
普-03	リラックスパフォーマンス形式の「こどもコンサート」と関連アウトリーチ、ワークショップ	8月3日（土） 3月20日（金・祝）	三宮図書館児童書コーナー 神戸文化ホール 大ホール
普-04	神戸市混声合唱団　合唱コンクール課題曲コンサート	5月17日（土）	神戸文化ホール 大ホール
普-05	第11回神戸国際フルートコンクール関連事業 フルート×医療・福祉 コミュニティプログラム	7月1日 8月20日 9月29日 10月22日	神戸文化ホール練習室 特養老人ホーム　六甲の館 特養老人ホーム　長田すみれ寮 こべっこランド（神戸市立児童福祉センター）

（2）〔基礎データ〕

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	27	19	21
	公演事業	14	11	10
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	3
	人材養成事業	6	1	3
	（内、本助成対象事業本数）	0	0	2
	普及啓発事業	7	7	8
	（内、本助成対象事業本数）	4	4	5
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　R6年度は3ヶ月程の改修工事休館あり			

※1 事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	481	368	448
	ホール名：大ホール　　座席数：2043	243	180	232
	ホール名：中ホール　　座席数：904	238	188	216

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	25,179	29,050	34,134
	公演事業	6,054	7,023	6,040
	人材養成事業	1,724	647	8,750
	普及啓発事業	17,401	21,380	19,344
	共生社会事業			
	その他　内容：			
	貸館事業入場者・参加者数	278,364	288,028	237,129
	その他　内容：共催事業	未集計	未集計	7,910
	計	303,543	317,078	279,173
開館日数		359	360	359
施設の利用可能日数 （＝365－（保守点検日数+休館日数））		293	233	307
施設の利用日数		244	192	265
施設の利用率(%) （＝利用日数/利用可能日数）		83.3%	82.4%	86.3%

備考	※R6年度は大ホールと中ホールで時期をずらしての各3ヶ月程の改修工事あり（休館はしていない）

※2 実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	22	43	19,092	2	8	2		1	1	8
	共催・提携公演（※2）	5	9	6,087	1	1	1	2			
	貸館公演	266	507	278,364	40	120	75		15		16
	計	293	559	303,543							
令和6年度	主催公演（※1）	21	31	32,035	3	10	1	1	1	1	4
	共催・提携公演（※2）	11	16	8,744	1	1	3	1			5
	貸館公演	412	357	276,299	62	154	68	11	3	8	106
	計	444	404	317,078							
令和7年度	主催公演（※1）	21	69	34,134	4	12	1		1	1	2
	共催・提携公演（※2）	7	12	7,910	1	1	3	2			
	貸館公演	208	360	237,129	16	192	92	12	8		40
	計	236	441	279,173	※貸館の内訳は事業本数ではなく公演回数						

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

- 公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
- 入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
- 有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	エマニュエル・パユ　プレゼンツ KOBE国際音楽祭2025　オープニング・コンサート	目標値	1,200	76.4%	アンケート観客満足度	5段階評価で上位2段階以上が80%以上	5段階評価で上位2段階以上が100%
		実績値	1,234	60.8%	アンケート自由記述欄への記入率	40%以上	44.6%
					新聞・専門誌・WEBメディアでの批評掲載数とその内容	掲載1本以上かつ好意的評価（またはSNS等での反響20件以上）	掲載4件（神戸新聞、日経新聞、関西音楽新聞、音楽現代）、すべて好意的評価
公-02	ポスト舞踏派「魔笛」	目標値	750	92.1%	アンケート観客満足度	5段階評価で上位2段階以上が80%以上	5段階評価で上位2段階以上が97.2%
		実績値	731	81.0%	アンケート自由記述欄への記入率	40%以上	87.3%
					アンケート「初めての体験や発見があった」の回答率	80%以上	95.8%
					新聞・専門誌・WEBメディアでの批評掲載数とその内容	掲載1本以上かつ好意的評価（またはSNS等での反響20件以上）	掲載1件（神戸新聞）、好意的評価
公-03	神戸文化ホール開館50周年事業 Creating in Kobe 神戸で創る「人間讃歌」『流々転々 KOBE1942-1946 』	目標値	1,650	69.6%	アンケート観客満足度	5段階評価で上位2段階以上が80%以上	5段階評価で上位2段階以上が89.6%
		実績値	2,117(※)	90.0%	アンケート自由記述欄への記入率	40%以上	90.0%
		※入場者数については、目標値には関連企画の参加者数が含まれないため、実績値には、実績報告書記載の関連企画参加者数を含めた数値2,274人から、関連企画参加者数157人を引いた数値を記載。			アンケート「初めての体験や発見があった」の回答率	80%以上	89.8%
					新聞・専門誌・WEBメディアでの批評掲載数とその内容	掲載1本以上かつ好意的評価（またはSNS等での反響20件以上）	掲載2件（ステージナタリー、Lmaga.jp）、すべて好意的評価

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人神戸市民文化振興財団
施設名	神戸文化ホール
内定額	26,522　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等)」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	エマニュエル・パユ　プレゼンツ　KOBE 国際音楽祭 2025　オープニング・コンサート	入場者数 1,234 人と目標値（1,200 人）を上回り、有料入場者数（販売枚数)・有料入場者率（販売率）も目標達成するなど、来場者数および収益面において一定の成果を挙げた。観客満足度は上位評価 100%と極めて高く、自由記述においても世界的フルーティストによる演奏の質の高さや企画全体への評価、さらには「神戸で聴けてよかった」といった地域への愛着や誇りにつながる声が多く確認された。新聞・専門誌等においても好意的な批評が複数掲載され、国際的水準の公演としてホールのブランド向上および神戸の文化発信に寄与したといえる。 自己評定は、入場者数･有料入場者数（販売枚数）が目標を上回り、満足度 100%および好意的な批評が得られるなど、質・量の両面で想定以上の成果を達成したことから S とする。
公-02	ポスト舞踏派「魔笛」	入場者数は 731 人と目標値（750 人）にわずかに届かなかったものの、有料入場者数（販売枚数）は 766 人と目標を上回り、一定の集客および収益性を確保した。観客満足度は上位評価 97.2%と極めて高く、自由記述欄の記入率も 87.3%と高水準で、来場者の関心の高さが確認された。特に「初めての体験や発見があった」との回答が 95.8%に達しており、ダンスと音楽を融合した独創的な舞台表現が新たな鑑賞体験を提供したことが示されている。アンケートにおいても「想像以上」「新しい発見」「強い感動」といった声が多く見られ、作品の創造性と芸術性が高く評価された。また、神戸新聞においても本公演は好意的に取り上げられ、著名作品を大胆に再構築した意欲的な試みとして評価されている。以上により、本事業は新たな芸術体験の創出および舞台芸術の多様性の提示に寄与したといえる。 自己評定は、観客満足度および新規体験に関する指標がいずれも目標を大きく上回り、創造性・体験価値の面で想定以上の成果を達成したことから S とする。

公-03	神戸文化ホール開館 50 周年事業 Creating in Kobe 神戸で創る「人間讃歌」『流々転々 KOBE1942-1946』	入場者数は 2,117 人と目標値（1,650 人）を大きく上回り、有料入場者数（販売枚数）も 2,033 人と高い水準を達成した。公演回数は当初 2 公演を予定していたが、需要の高まりを受けて 3 公演へ拡大した結果、動員および収益の両面で顕著な成果を上げた。観客満足度は 89.6%と目標を上回り、「初めての体験や発見があった」との回答も高水準を記録した。自由記述欄の記入率は 90.0%に達し、作品に対する強い関心が示されている。アンケートでは「新しい表現で引き込まれた」「神戸の歴史や街への理解が深まった」などの声が多く見られ、創作性と地域性を兼ね備えた作品として評価された。また、WEB メディアにおいても複数の好意的な批評が掲載され、神戸を舞台にした意欲的な創作として広く発信された。以上により、本事業は地域に根差した創造的舞台作品の創出と、その発信において高い成果を上げたと評価できる。 自己評定は、入場者数・有料入場者数（販売枚数）ともに目標を大幅に上回り、事業規模の拡大にも柔軟に対応しながら高い満足度と創造的成果を両立したことから S とする。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	・（構想力・連携力）自治体・地域の多様な文化機関と連携しつつ、創造・育成・普及の 3 つの柱による中長期的な構想を持ち、年度を超えた戦略的な事業設計を行っている。

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	①アンケート自由記述欄への記入率（上演の印象・芸術性・演出に関する記述） ②専門家・批評家等による論評件数（新聞・専門誌・WEB など） ③掲載内容の評価（専門家・関係者のヒアリング）	①全回答者のうち 40%以上が自由記述欄に記入 ②各事業で 1 件以上の掲載を目指し、通算で 3 件以上の掲載を得る ③関係者 5 名以上によるヒアリングで、4 名以上が「概ね好意的だった」と評価	①全事業において目標値（40%以上）を達成した。内訳はエマニュエル・パユ 44.6%、「魔笛」87.3%、『流々転々』90.0%であり、特に創作性の高い作品において高い記入率が確認された。 ②エマニュエル・パユ 4 件、「魔笛」1 件、『流々転々』2 件と、通算で 7 件の掲載を獲得し、目標値を大きく上回る成果となった。 ③掲載された批評はいずれも好意的な内容であり、アーティストの演奏・表現の質の高さや、独創的な演出、地域の特性を活かした創作性等について評価が得られた。概ね高い評価を得ており、目標値を達成したといえる。

人材養成事業	①育成対象者の成果の実感（アンケート・ヒアリング） ※インターンシップ・アートマネジメント講座の参加者およびフルートコンクール出場者を対象とする ②外部連携機関（大学、学校、公共施設等）からの評価（ヒアリング） ※インターンシップ連携大学やフルートコンクール関連プログラムの協力機関などが対象	①「成果があった」「十分に学びがあった」と回答したインターンシップ・アートマネジメント講座の参加者が 80%以上、「自らの学びとなった」「自らのキャリア形成に資することができた」と回答したフルートコンクール出場者が 80%以上 ②ヒアリング実施先の 80%以上から「今後も継続希望」または「非常に有意義だった」との回答を得る	①アートマネジメント講座においては、「成果があった」「十分に学びがあった」と回答した参加者が各回とも高水準となり、概ね 80%以上を達成した。また、フルートコンクール出場者に対するヒアリングにおいても、「学びとなった」「キャリア形成に資する経験となった」との声が複数確認されており、育成対象者の多くが成果を実感している。インターンシップについても実務参画を通じた実践的な学びの機会を提供しており、目標値を達成したと評価できる。 ②インターンシップ連携大学やルートコンクール出場者による教育施設等での演奏・交流事業の連携機関から「非常に有意義であった」「今後も継続して実施してほしい」といった評価が複数得られており、概ね 80%以上が肯定的な評価であった。本事業が外部連携機関にとっても有効な取り組みであったことが確認され、目標値を達成したと評価できる。

普及啓発事業	①参加者の新規性と満足度（アンケート）※全事業対象 ②受入機関・連携先・出演者からの評価（ヒアリング・アンケート）※招待先（病院・福祉施設・学校）、参加アーティスト、連携 NPO 等を対象	①アンケート回答者のうち「今回が初めての来館」と回答した人が30%以上、「また来たい」と回答した人が80%以上 ②ヒアリングまたはアンケート対象の 80%以上から「今後も継続して実施してほしい」「地域貢献度が高い」との評価を得る	①「初めての来館」は、合唱コンクール課題曲コンサート 49%、こどもコンサート 72.6%で目標(30%以上）を達成した。一方、恒例事業として定着している神戸文化ホールウェルカムジャンボリーや他施設で実施した演劇公演「めにみえないみみにしたい」は、実施形態上、単純比較は難しいが、いずれも「初めて参加したジャンル」の割合は高く、新たな体験機会の創出につながった。「また来たい」は 70%台であったが、満足度は神戸文化ホールウェルカムジャンボリー100%、演劇公演「めにみえない　みみにしたい」100%、合唱コンクール課題曲コンサート約 99%、こどもコンサート約 82%と高水準で、全体として目標を概ね達成した。 ②フルートコンクール関連事業として実施した音楽交流プログラムにおいて、受入施設（福祉施設・児童施設等）および出演者へのヒアリングにより、「非常に有意義であった」「今後も継続して実施してほしい」といった肯定的な評価が 100%となり、目標を達成した。
共生社会事業			

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	自由記述記入率が全事業で目標（40%以上）を達成し、批評掲載も各事業で1件以上、通算でも目標を上回る件数を獲得し、内容もいずれも好意的であったことから、評価指標を達成した。これらの結果から、海外アーティストの招聘による高水準の公演、舞踊と音楽を融合した実験的作品、地域の歴史や文化を基盤とした創作作品など、多様なアプローチを組み合わせたプログラムにより、芸術性と地域性を両立した企画力および高い制作力を有する事業を発信することができたと評価できる。また、観客および専門家双方からの評価を得ていることで、圏域内外への発信力を備えた取り組みとなっている。

人材養成事業	
自己評価	アートマネジメント講座参加者のアンケートにおいて「成果があった」「十分に学びがあった」との回答が概ね80%以上を達成し、フルートコンクール出場者からも学びやキャリア形成への寄与が確認された。また、フルートコンクール出場者による教育施設等での演奏・交流事業における連携機関からも「有意義であった」「継続して実施してほしい」との評価が得られ、指標を達成している。以上により、国際的な人材育成と地域における実践的な人材育成を接続する構造を有し、育成成果を社会へ還元する仕組みを構築している点で、企画性および連携性の高い事業であったと評価できる。

普及啓発事業	
自己評価	新規来館者割合は合唱コンクール課題曲コンサートやこども向け事業において目標（30%以上）を達成し、満足度も各事業で高水準を示した。また、フルートコンクール関連事業として実施した音楽交流プログラムでは、受入機関や連携先、出演者からも「有意義であった」「継続して実施してほしい」との評価が得られ、指標を概ね達成した。アウトリーチ型事業や参加型プログラムを通じて、劇場外も含めた多様な場で文化芸術に触れる機会を提供し、新規層の開拓および体験機会の創出に寄与している。以上により、地域に開かれた発信力と社会的意義を備えた企画であったと評価できる。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・(国際プレゼンスの向上) 海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・(国際交流) アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・(新たな創客への取組) 在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	・(社会包摂) 外国人来場者へのアクセシビリティ対応が行われている。 ・(連携力) 教育との分野横断的な連携による国際交流を目指している。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①海外招聘・交流実績： ・海外招聘アーティストによる出演（公-01） ・各国領事の招待(公-01) ・フルートコンクールへの海外応募者および海外審査員の招聘（人-01） ・フルートコンクールの海外からの出場者による教育施設等での演奏・交流(人-01) ②観客・参加者の反応： ・「海外アーティストの演奏をまた聴きたい」等のアンケート回答（公-01・人-01） ・「外国人演奏者と交流できた」と感じた割合 （人-01）	①海外招聘・交流実績： ・海外招聘アーティスト出演公演：1件以上実施（公-01） ・各国領事の招待：5 名以上(公-01) ・フルートコンクール応募者の 60%以上が海外国籍／審査員・講師に 5 名以上海外招聘（人-01） ・教育施設等での演奏・交流：3 ヶ所以上で実施(人-01) ②観客・参加者の反応： ・ 「また聴きたい」「交流できた」と回答した来場者・参加者が 80%以上（公-01・人-01）	①海外招聘アーティストによる公演を 1 件実施し、エマニュエル・パユ(フルート）とアンドレアス・オッテンザマー（指揮）の 2 人の海外アーティストが出演した。(公-01) また、各国領事を 9 名招待し国際的な発信機会を創出した。(公-01) フルートコンクールにおいては、世界 41 の国・地域から 357 名の応募があり、その約 8 割が海外からの参加であった。また、審査員・講師として海外の著名演奏家 7 名を招聘し、国際的な審査・指導体制を構築した。さらに、海外からの出場者による教育施設等での演奏・交流を 5 か所で実施し、目標値（3 か所以上）を上回る成果を上げた。(人-01) ②アンケートの満足度評価（上位評価 100%）および自由記述において、海外アーティストの演奏や国際的な交流機会に対する肯定的な意見が多く見られた。これらの結果から、国際的な文化芸術体験に対する関心および評価は高く、「また聴きたい」「交流できた」といった肯定的な反応が多数を占めていると評価でき、目標値を概ね達成した。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	海外トップアーティストの招聘および国際コンクールの実施により、評価指標に掲げる海外招聘・交流実績および観客・参加者の反応の両面において目標を達成した。特にフルートコンクールでは、応募者の約8割が海外からの参加であり、海外審査員7名を含む国際的な審査体制を構築するなど、高い国際プレゼンスを確立した。また、海外出場者による教育施設等での交流を5か所で実施することで、地域における国際文化体験の機会を創出し、社会的な波及効果も生み出している。これらの取り組みにより、人的交流、国際発信、地域還元を一体的に実現しており、国際性の観点から高い成果を上げたと評価できる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・（文化拠点）地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・（地域連携）地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・（児童生徒への機会提供）次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※2）	障害者対応のためのアシストフォンの貸出等に対応している。
	・自由設定の観点（任意）（※3）	特になし

（※2）・（※3）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※4）	目標（値）（※5）	実績（値）
①（地域連携）芸術文化・福祉・教育分野の地域団体と連携して実施した事業数 ②（子どもへの機会提供）未就学児～高校生を対象とした鑑賞・体験型事業の実施件数と未就学児～高校生の参加者数（普 1,2,3） ③（シビックプライド）鑑賞型事業のアンケートにて「地域や劇場に愛着（または誇り）を感じた」と回答した割合	①地域団体と連携して実施する事業を 5 件以上 ②子ども対象事業を 3 件以上実施し、未就学児～高校生の延べ参加者数460人以上を目指す（普 1,2,3） ③アンケート回答者のうち 70%以上が「愛着を感じた」「誇りに思う」と回答	①芸術文化・福祉・教育分野の地域団体と連携して実施した事業は、公演事業 3 件、人材養成事業 2 件、普及啓発事業 5 件の計 10 件となり、目標値（5 件以上）を大きく上回った。 ②未就学児から高校生を対象とした鑑賞・体験型事業を 3 件実施し、こども向けワークショップ、演劇公演、リラックスパフォーマンス等を通じて多様な文化芸術体験の機会を提供した。参加者数については、若年層向けチケットの販売割合（神戸文化ホールウェルカムジャンボリー42.2%、演劇公演「めにみえない みみにしたい」36.3%、こどもコンサート 39.6%）および来場者アンケートにおける年齢構成を基に、目視確認による膝上入場者等も含めて算出した結果、未就学児～高校生の延べ参加者数は約 730 人となり、目標値（460 人以上）を大きく上回った。 ③鑑賞型事業のアンケートにおいて、「地域やホールに親しみ・誇りを感じた」とする回答は、神戸文化ホールウェルカムジャンボリーで 94.5%、演劇公演「めにみえない みみにしたい」で 100%となり、いずれも目標値

		（70%以上）を上回った。こどもコンサートについても満足度および自由記述から地域や劇場への肯定的な評価が確認されており、全体として目標値を達成した。

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標に掲げる地域連携、子どもへの機会提供、シビックプライドの各項目において目標を達成した。芸術文化・福祉・教育分野の地域団体との連携事業を 10 件実施し、各団体との協働を実現することで、地域の文化拠点としての機能を発揮した。また、未就学児から高校生を対象とした鑑賞・体験型事業を 3 件実施し、延べ約 730 人の子どもが参加するなど、次代を担う世代への文化芸術体験の機会を創出した。さらに、鑑賞事業においては地域や劇場への親しみ・誇りを感じたとする回答が高水準を示しており、シビックプライドの醸成にも寄与した。これらの取り組みにより、地域資源を活用した事業展開と分野横断的な連携を通じて、地域に根差した文化拠点として高い成果を上げたと評価できる。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・(プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・(参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・(アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	特になし

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①若年層の利用者数(U25 チケット等の若年層向けチケットの販売数)	①U25 チケット等の若年層向けチケットの利用者数：延べ 300 人以上	①U25 チケットおよび高校生以下、こども券等の若年層向けチケットの販売数は、各公演の販売実績を集計した結果、延べ約 860 人となり、目標値（300 人以上）を大きく上回った。
②鑑賞サポート（ヒアリングループ、字幕タブレット等) を実施した公演数	②鑑賞サポート実施公演数：年間 5 公演以上	②ヒアリングループ、多言語字幕、英語対応、リラックスパフォーマンス、託児サービス等の鑑賞サポートを実施した公演は、公演事業および普及啓発事業を通じて合計 7 件となり、目標値（5 公演以上）を上回った。
③鑑賞型事業における「地域（や劇場）に愛着や誇りを感じた」へのアンケート回答割合	③アンケート回答者のうち 70%以上が「地域（や劇場）に愛着（や誇り）を感じる」と回答	③鑑賞型事業のアンケートにおいて、「地域やホールに親しみ・誇りを感じた」とする回答は、神戸文化ホールウェルカムジャンボリー94.5%、演劇公演「めにみえない みみにしたい」100%と、いずれも目標値（70%以上）を上回った。その他の事業においても満足度および自由記述から肯定的な評価が確認されており、全体として目標値を達成した。

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標に掲げる若年層の利用、鑑賞サポートの充実、シビックプライドの醸成の各項目において目標を達成した。若年層向けチケットの利用者数は延べ約 860 人となり、幅広い世代に対する鑑賞機会の提供を実現した。また、ヒアリングループや多言語字幕、英語対応、リラックスパフォーマンス、託児サービス等、多様な鑑賞サポートを複数の公演で実施し、障がいの有無や年齢、言語的背景等に関わらず参加しやすい環境づくりに取り組んだ。さらに、鑑賞事業においては地域や劇場への親しみ・誇りを感じたとする回答が高水準を示しており、多様な観客層の参画と満足度の向上につながった。これらの取り組みにより、誰もが文化芸術にアクセスできる環境の整備と、多様性を尊重した事業展開の両立が図られており、高い成果を上げたと評価できる。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	（創作過程の可視化と共有） 創作・企画の背景や意図を、事業実施の早い段階から積極的に発信・共有し、来場者や関係者の理解と共感を高める取り組みを行っている。

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
①公演前に発信するインタビュー、関連企画レポート等のコンテンツの件数 ②発信内容に対するメディア掲載数、SNS 等でのリアクション件数の集計	①公演前の発信コンテンツを 10 件以上作成 ②メディア掲載が 20 件以上または SNS等でのリアクションが延べ2,000 件以上	①『流々転々』を中心に、上演決定速報、公演概要発表、滞在制作・リサーチのレポート、記者会見レポート、関連企画レポート、稽古場レポート、開幕直前キャストコメント、開幕速報等の計８件のコンテンツを作成し、プレスリリース・ホームページ・SNS で発信した。さらに、広報誌・機関誌での特集記事や出演者・演出家インタビュー、SNS におけるコメント動画（14 件）等を含め、全体でさらに 30 件以上の発信コンテンツも制作・展開し、目標値（10 件以上）を大きく上回った。 ②上記の発信により、新聞・WEB メディア等での掲載は、エマニュエル・パユ公演 12 件、『流々転々』・演劇公演「めにみえない　みみにしたい」・神戸文化ホールウェルカムジャンボリー等で計 35 件、こどもコンサート 2 件、フルートコンクール 7 件となり、合計 56 件の掲載実績を得た。目標値（20 件以上）を大きく上回るとともに、SNS においても多くのリアクションを獲得し、創作過程の発信を通じた観客の関心喚起と理解促進につながった。

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	創作過程の可視化と共有を重視し、評価指標に掲げる発信コンテンツ数およびメディア・SNS での反応の両面において、目標を大きく上回る成果を達成した。特に創作作品『流々転々』では、上演決定段階の速報から、滞在制作リサーチ、関連企画、滞在制作稽古、そして本番直前に至るまで段階的に情報発信を行い、作品の背景や意図を継続的に共有することで、観客の理解と期待の醸成につなげた。また、コメント動画やレポート記事等を通じて多様な切り口で発信を行った結果、メディア掲載および SNS 上での反応も多数獲得した。これらの取り組みにより、創作プロセスを含めた体験価値の提供と、観客との関係性の深化が図られており、単なる公演実施にとどまらない発信型の事業運営として高い成果を上げたと評価できる。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

特に印象的であったのは、鑑賞環境の工夫や創作過程の共有によって、これまで劇場との距離を感じていた人々との新たな関係が生まれたことである。

リラックスパフォーマンス形式の公演や福祉施設でのアウトリーチでは、障がいの有無や年齢に関わらず安心して参加できる環境を整えた結果、アンケートには「初めて劇場で最後まで作品を観ることができた」「子どもと一緒に気兼ねなく楽しめた」といった声が寄せられた。これらの言葉は、単に満足度の高さを示すだけでなく、文化芸術へのアクセスのあり方そのものが変わりつつあることを示している。劇場が、特別な場所から誰もが関われる場へと変化する手応えを感じる出来事であった。

また、滞在制作により創作した作品『流々転々』においては、創作の初期段階からリサーチ、ワークショップ、稽古、関連企画、本番へと至る過程を継続的に発信し、作品が生まれていく時間を観客と共有した。鑑賞後には「作品の背景を知ったうえで観ることができた」「創作の過程を追うことで理解が深まった」といった反応が多く見られ、地域において作品への関心や愛着が育まれていることが実感された。完成された舞台だけでなく、その過程を含めて体験として届けることの重要性を改めて認識する機会となった。

さらに、フルートコンクールにおける地域施設での交流では、海外からの出場者が地域の人々と直接音楽を分かち合う場面が生まれた。言語や文化の違いを越えて音楽が共有される瞬間は、国際交流の本質を体現するものであり、参加者・受け入れ側双方にとって深い印象を残した。

これらの取り組みは、いずれも助成を活用することで実現したものであり、文化芸術が人と人、地域と世界をつなぐ力を持つことを具体的に示す事例となった。劇場が社会に開かれた場として機能し、多様な人々の経験を受け止めることの意義を、実感を伴って確認することができた。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	助成金・市補助金のほか、入場料収入や協賛金の一部獲得実績あり。	広報誌・SNS 等による情報発信を行っている。会員制度あり。
目標(値)（※2）		
実績(値)	神戸国際フルートコンクールに以下の協賛金があった。 ・特別協賛 神戸文化マザーポートクラブ 株式会社 龍角散 ・企業協賛 六甲山観光株式会社 株式会社ドルチェ楽器 株式会社村松フルート製作所 パール楽器製造株式会社 ミヤザワフルート製造株式会社 October Studios 株式会社ダク Dxo Labs ホテルクラウンパレス神戸 株式会社プリマ楽器 株式会社ヤマハミュージックジャパン 17 名の個人 ・助成 中内力コンベンション振興財団	当館が発行している情報誌「ほーるめいと」のリニューアルを実施した。 いままでは年 6 回発行していた A4 サイズ 12 ページの冊子を、チケットや催事情報を中心とした情報誌（A4 サイズ 4 ページ）として年 6 回発行することとし、さらに館のブランディングや市民との思い出やエピソードを共有する新たな冊子を新設して「別冊ほーるめいと」と名付け、年 2 回（A4 サイズ 8 ページ）として発行した。 SNS は発信作業のルーティン化を進め、文章作成者と承認者の枠割分担、発信時期の統一などの手順を整理した。そのため、週 1 回（年 50 回程度）の定期的な情報発信を行うことができた。 X フォロワー数　約 3600 件 Facebook フォロワー数　約 1200 件 インスタグラムフォロワー数　約 5300 件 （財団発行の神戸 C 情報と合わせた数）
団体の自己評価	4 年周期の国際コンクール実施年度だったため、例年よりも多くの協賛金が集まった。今回得ることが出来た企業サポーターとの人的ネットワークを活用し、次年度以降はより一層の外部資金獲得を進めていきたい。	情報誌のリニューアルは地元の広報宣伝のコンサルタント会社と提携して実施することとし、このあと予定されている新ホールへの移転プロセスの広報戦略をともに検討していくこととなった。 SNS の発信は定期化することができ、前年比で約 20 から 30%程度の増加となった。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	他館との連携を継続実施している。	四半期ごとの指定管理運営状況報告や定期的な協議を実施し、重要方針における合意形成を図っている。
目標(値)（※2）		
実績(値)	助成対象事業を中心に、 「魔笛」全国公文協による EPAD 事業の映像収録 「流々転々」芸術文化観光専門職大学からのインターン生の受入れや舞台美術作成の協力 「神戸国際フルートコンクール」ミューザ川崎シンフォニーホールによる審査協力 「めにみえない　みみにしたい」彩の国さいたま芸術劇場との連携によるツアー実施 などを行った。 当館の専門人材としては、芸術文化観光専門職の地域連携協議会委員への就任、東京大学大学院（小林真理ゼミ）への臨時出講、神戸市立六甲アイランド高校への出前授業への登壇があったほか、全国公文協の専門委員会委員への就任や同協会個別プロジェクトのチームリーダー就任、劇音協事務局長、緊急事態舞台芸術ネットワーク理事への就任など、全国的な統括団体への参画も積極的に行った。	設置者である神戸市とは、指定管理の協定書等に基づき、四半期報告書をはじめ継続的に施設の運営状況について情報共有を図っている。 令和 7 年度については、4 月に設備老朽化に起因する大ホール天井からのスプリンクラーの水漏れが発生したが、直ちに設置者である市の所管課と連携を取り、利用の一時停止や代替施設斡旋の検討、応急工事の実施に関する臨時対応、神戸市消防局との協議等、速やかに対応を実施することができた。
団体の自己評価	新ホールへの移転に向けて、全国的な人的ネットワークの構築を進めてきたところであり、公共劇場発の演劇作品の上演が定着するなど、事業実施の安定化という形でその成果が現れている。 また、業界全体の発展のために統括団体への貢献など、引き続き積極的に関与していきたい。	新ホールへの移転に向けて、市所管課幹部と指定管理者である財団幹部の定期会話の構築を進めてきたところであり、市局長と財団理事長のシャトル会議（市と財団本部とで交互に会議を実施）など、情報共有の深化と安定化という形でその成果が現れている。 また、新ホールの指定管理者の選定に関しては、当財団を非公募で選定する方向で検討していくことが令和 8 年 2 月市議会で公表されたところ。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ) ～ (セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	神戸市室内管弦楽団および神戸市混声合唱団にそれぞれ音楽監督を配置している。	管理運営・事業・総務部門間の連携により、中期的な事業計画を策定し、年度ごとの運営計画に落とし込んでいる。
目標(値)（※2）		
実績(値)	神戸市室内管弦楽団に鈴木秀美、神戸市混声合唱団に佐藤正浩を配置し、各団の芸術面の指導や定期演奏会の指揮等に活躍している。 また、新ホールに向けた事業制作体制の強化を図るため、事業コーディネーターとして元 TBS 事業部長の河出洋一を招聘し、演劇事業等のリニューアルを図っているほか、神戸市ゆかりのアーティストである森山未來やウォーリー木下らとの継続的な対話の機会を設け、現ホールのクロージング事業や新ホールのオープニング事業など、将来構想を検討する作業に着手したところ。	指定管理者である財団が策定した現行の中期経営計画の最終年度が令和 8 年度であることもあり、令和 7 年度はその改訂作業の準備に着手した。 財団を取り巻く様々な経営環境の中でも、当館については、開館 50 周年事業の完遂と 2028 年度に予定されている新ホールへの移転という大きなテーマがあり、人的リソースの増強、財団内のガバナンスの強化を検討した。
団体の自己評価	演劇・舞踊分野の芸術面に助言等をするアーティストのより一層の参画が望まれていたが、地元ゆかりのウォーリー木下らとの定期的な対話が始まったほか、助成事業の「魔笛」に出演した森山未來、同じく助成事業の「流々転々」で演出・振付を担当した小野寺修二などのアーティストも今後単なる出演にとどまらない関係性づくりを始めることが出来た。	その検討の成果として、 ・財団理事長（元民間企業役員）と設置者である市所管課の局長との定期協議の開始 ・当館を統括する役職（副館長に相当する事務局次長を配置）を新設してプロパー職員を登用 ・新ホール準備に専従する部門の新設 ・広報営業部門に全国の創造型劇場や実演団体で活躍してきたスタッフを正規職員として採用 などがある。 引き続きそれら新体制のもとで、令和 9 年度からの 5 ヶ年の次期中期経営計画の策定を進めていく。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。		（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	各分野に専門スキルを有する人材を配置し、後継者の育成や若手の人材確保を行っている。		部門ごとに役職と業務が整理され、部長・課長など責任者が業務調整を行っている。
目標(値)（※2）			
実績(値)	令和８年４月現在、当館のマネジメント部門に、 ・事務局次長（文化ホール担当兼新文化ホール準備室長） ・文化ホール事業部長 ・文化ホール事業担当部長 ・文化ホール事業課担当課長（広報営業） ・文化ホール管理部長 ・舞台課長 ・新文化ホール準備室担当課長 などに、全国的に活動する他文化施設や実演団体等での経験のある専門人材を配置し、さらなる若手スタッフの育成を進めた。 また、令和７年度には正規職員の給与表の改訂を実施し、若手職員の場合、10～20%程度の待遇の改善を行った。 また、令和７年度に実施した研修は下記のとおり。 消防局主催の市民救命士受講 新規採用職員研修 六甲山観光株式会社への出向勤務報告会 理事を講師に招いた理事研修会（2回） 財団職員短期国内派遣研修 短期国内派遣研修報告会 神戸市外郭団体向けコンプライアンス研修 基本的なソフトスキル（話す力・聴く力・考える力）向上研修 決算・事業概要報告、市文化施策説明研修 ホームページセキュリティ研修 消防局市民救命士研修 神戸文化ホール施設設備見学研修 アートマネジメント講座（3回）		指定管理者である財団の中期経営計画の改訂が予定されているため（令和９年度から次期計画に移行）、的リソースの増強、財団内のガバナンスの強化を図ってきた。 その成果として、 ・財団理事長（元民間企業役員）と設置者である市所管課の局長との定期協議の開始 ・当館を統括する役職（副館長に相当する事務局次長を配置）を新設してプロパー職員を登用 ・新ホール準備に専従する部門の新設 ・広報営業部門に全国の創造型劇場や実演団体で活躍してきたスタッフを正規職員として採用 などがあるほか、令和８年４月に組織改正を実施し、当館のマネジメント部門を、 ・事務局次長（文化ホール担当兼新文化ホール準備室長） ・文化ホール事業部（文化ホール事業課） ・文化ホール管理部（舞台課長、施設サービス課） ・新文化ホール準備室 と改正した。 全国的に活動する他文化施設や実演団体等での経験のある専門人材を配置しているほか、複数のアーティストの芸術面や企画面での参画を進めている。

団体の自己評価	専門人材の配置を進めていくことと並行して、現スタッフの育成や能力向上も進めていく。若手スタッフの中に、他市の文化審議会委員に就任する者や京都芸術大学の非常勤教員を継続する者などもあり、徐々に専門能力の向上の一端が見え始めている。 今後はさらに若手等などの給与水準の改善を進める他、人件費財源のさらなる確保を図るための設置者との協議を行っていく必要がある。 研修に関しては、上記のほか、全国公文協の研修会（研究大会等のリアル研修会、オンライン研修）などを積極的に受講している。 当館職員が継続的に全国公文協の「劇場・音楽堂等による共生社会実現のための人材養成講座」を受講しており、助成事業の「ウェルカムジャンボリー」等の実施に際して、ヒアリングループ席の設置や手話通訳者の配置など、実際の事業実施の現場に役立てている。	当館のマネジメントの強化という観点からすると、現ホールの運営（事業、管理、舞台）と新ホール準備を一体的に統括する事務局次長を新たに設置し、その職務にプロパー職員を配置したことは自立的な運営を専門人材を中心に行っていくという今後の方針を体現するものと考えている。 他方で、設置者との情報共有や中長期的な施設運営の検討を進めていくために、財団理事長と市所管課の局長との定期協議は有効であるほか、財団総務部門には市の課長級職員を出向で配置し、経営課題の認識や危機管理体制の構築、事故事件情報の共有など現場レベルでの連携の深化も図っている。

	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
評価の観点		
現状（※1）	30 代以下の職員も一定数在籍。新卒の雇用も行っている。	女性職員の割合が高く、管理職（課長級以上）における女性比率も年々上昇。昇進機会の均等化に取り組んでいる。
目標(値)（※2）		
実績(値)	令和 7 年度の 4 月の大学・大学院新卒の新規職員として、 ・昭和音楽大学 ・エリザベト音楽大学 ・玉川大学 ・大阪音楽大学 から 4 名の新卒者が当財団の各部門に着任した。 また、芸術文化観光専門職大学を令和 7 年 3 月で卒業した若者が他業種を経て令和 8 年 4 月から当館舞台スタッフに着任するなど、転職というかたちで当館スタッフになる若年層も一定確保している。	当館の運営に関わる財団本部及び当館組織の管理職（理事長以下課長以上）の男女比は以下のとおり 管理職の状況 総数　20 名 女性　　8 名（40%） 男性　12 名（60%）

団体の自己評価	令和 7 年度 4 月着任の新卒新規採用では、関西学院大学、芸術文化観光専門職大学の学生にも採用内定の通知を行ったが、残念ながら辞退という結果になり、うち 1 名は他業種に就職することになったと聞いている。 また、中途採用選考でこれまでにも内定の辞退（他業種への就職）という結果が何度も発生しており、当財団にとどまらない業界全体の待遇の改善や若者に向けた舞台芸術分野で働くこととの魅力の発信が必要だと感じている。 その一環として全国公文協で舞台芸術人材に関する資格制度についての検討プロジェクトが始まっており、当館としても様々な機会を通じてその具体化に向けた検討プロセスに協力していくこととしている。ぜひ日本芸術文化振興会においても全国公文協のプロジェクトへの参画や国民に向けた舞台芸術の仕事の魅力発信にお力添えいただきたい。		令和 8 年 4 月の組織の状況として、プロパー職員（担当級）から課長職への登用が 2 名あったが、2 名とも女性であった。 また同年 4 月に中途採用で課長職 1 名を採用したが女性であり、今後同年 7 月に着任を予定している中途採用の課長職 1 名も女性である。 当財団としては、引き続き適切なジェンダーバランスの実現に積極的に取り組むこととしている。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	育児･介護休業制度、時短勤務制度あり。家庭の事情に応じて柔軟な勤務調整を可能とする運用を行っている。	内部ルールの周知を徹底している。
目標(値)（※2）		
実績(値)	当館の運営に関わる財団本部及び当館組織の状況は以下のとおり 育児・介護休業制度　30 代女性職員 1 名が利用中 時短勤務制度　40 代女性職員 1 名が利用中 育児・介護等の事情による柔軟な制度運用の例としては、在宅勤務からの出勤や当日朝の申し出による勤務シフトの時間変更、時間単位での監護休暇の取得等を行っている。	下記研修等を通じて、基本的な知識やルールの共有を図っている。 新規採用職員研修 神戸市外郭団体向けコンプライアンス研修 決算・事業概要報告、市文化施策説明研修 ホームページセキュリティ研修 そのほか、情報セキュリティの専従担当者を配置し（委託)、ホームページやイントラネットのセキュリティ向上や安定性の確保に努めている。
団体の自己評価	上記の施策について、職場内での共感に基づく積極的な協力体制作りが必要と考えるが、管理職自らが諸制度を積極的に活用するなど、率先して風通しの良い職場つくりに取り組んでいるところ。	神戸市出向職員が中心となり、コンプライアンスの確保に関するガバナンスの強化を図っている。 今後、新ホールへの移行の中で、新ホールは複合施設の低層部に入居する形態になることから、情報セキュリティや不審者対策、防火防犯対策など新たな観点でのコンプライアンスの強化が必要になると感じている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル・ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	ハラスメント研修を実施している。	アーティスト・外部スタッフとの契約は、書面での合意・押印を原則として実施し適正に処理。
目標(値)（※2）	ハラスメントガイド策定、相談窓口の充実を目指す。	
実績(値)	神戸市外郭団体向けコンプライアンス研修の中でハラスメント研修も行っている。 さらに、令和 6 年度に当財団が策定した公演プロダクション向けのハラスメント対策ガイドラインをもとに、令和 7 年度助成事業「流々転々」のプロダクションの立ち上げに際して、改訂版のガイドラインを作成し、稽古初日に読み合わせ形式で共有するなど、様々な立場や契約の関係者が出入りする稽古場や創作現場でのハラスメント対策について念入りに対応を行った。 また、外部通報窓口として神戸市の外郭団体向け窓口（弁護士事務所）を活用している。	アーティスト・外部スタッフとの契約は書面により適正に取り交わしているほか、取引先への発注や契約書を伴わない軽易な発注についてもメール等による事前の条件提示など「取適法（中小受託取引適正化法）」の趣旨に基づいたやり取りを行っている。
団体の自己評価	現行の対策のもと、当財団の内外でハラスメント被害を訴える事例は発生していない。他方で、カスタマーハラスメントに近いクレーム対応なども現場窓口では発生しているため、今後は職員の雇用環境を守る意味でもその方面の対策強化が必要と感じている。	令和 8 年度の助成事業として「アートマネジメント講座」を予定しているが、その中で弁護士による「取適法（中小受託取引適正化法）」の解説を主テーマにした講座を実施する（11 月）。 当財団にとっても喫緊のテーマであるとともに、他の文化施設や実演団体にとっても必要なテーマであると認識しているため、当初は当財団の職員研修という構想で講師選定などを行っていたが、公開講座という形で実施することとし、広くこのテーマの知識を共有できればと思っている。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
助成対象事業の、創造性・企画性、国際性、地域文化拠点機能、多様性とアクセシビリティ、運営体制と持続可能性の各観点において、いずれも目標を達成し、総合的に高い成果を上げることができた。特に、創作過程の可視化や段階的な情報発信、多様な鑑賞環境の整備を通じて、これまで劇場との距離があった層を含めた新たな観客との関係構築を進めることができ、文化芸術への参加の裾野拡大につながった点は大きな成果である。 また、国際コンクールや海外アーティスト招聘を通じた人的交流、地域団体や教育・福祉分野との連携による事業展開により、地域と世界をつなぐ文化拠点としての役割を具体的に発揮することができた。 一方で、こうした取り組みを持続的に発展させていくためには、外部資金のさらなる確保や専門人材の育成・確保、発信力の一層の強化が重要であると認識している。さらに、日本芸術文化振興会の PD・PO の方々や職員の皆さんとの意見交換や様々なご評価に基づく伴走支援の助力も得ながら、事業実施の改善や運営体制の整備に取り組み、PDCA サイクルに基づく自律的な劇場音楽堂等の運営のモデルを構築していきたい。 今後は、本助成事業で得られた成果やネットワークと、振興会との評価活動を通じた助言や伴走支援を基盤としながら、新ホールへの移転も見据え、より持続可能で発展性のある事業運営・施設運営を目指していきたい。

備考